

平成30年度 学校関係者評価書

学校名	北海道厚真高等学校
-----	-----------

組織名	学校評議員会
評 価 者	
学校評議員5名	

1 本年度の重点目標

(1) 本校生徒に必要な資質・能力を明確にし、基礎的・基本的な知識や技能及び課題解決に必要な思考力、判断力、表現力を育成するとともに、主体的に学習に取り組む態度を育てる。

(2) 公共の精神や社会規範及び他者の生命を尊重する意識と態度を持ち、自ら正しく判断して行動できる生徒を育てる。

(3) 自己の個性や適性を理解するとともに、将来の進路設計を明確に持ち、未来を切り拓くにあふれる生徒を育てる。

(4) 特別活動や部活動を通して、よりよい人間関係や社会性を育成するとともに、心豊かにたくましく活動する生徒を育てる。

重点目標の適切さ 教員による自己評価で非常に高い評価がなされており、教員一人ひとりが教育目標および重点目標を意識した取り組みとなっていることが理解できる。そのことより、適切な目標を設定していることが分かった。

2 自己評価結果

評価項目・指標等			達成状況	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の結果 内容の適切さ	取組の適切さ	今後の改善方 策の適切さ
大項目	中項目	小項目						
学習指導	基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、基礎学力の充実と向上を目指す。	(指標) 生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、「朝学習」の取組等に係る肯定的な回答が70%以上となること。 (生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が70%以上を評価A、50%以上を評価B、50%未満を評価Cとする)	A	B	・肯定的な回答が75%であり、前年度83%と比べ低下した。要因は、学年間の格差による。積極的に取り組む内容への改善を図る。	A	A	A
		(指標) 生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、家庭学習に関して「取り組んでいる」「概ね取り組んでいる」等の肯定的な回答が60%となることを目標とする。 (生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が60%以上を評価A、40%以上を評価B、40%未満を評価Cとする)	B	B	・肯定的な回答が49%であり、前年度とは変化はなかった。課題の工夫や週末課題等の実施に取り組む。次年度は生徒の肯定的な回答が60%以上を目指す。	A	A	A
評価者の意見等	・基礎基本を重視した指導を評価する。 ・家庭の教育力が今後の課題となる。							
生徒指導	公共の精神や社会規範を尊重する意識と態度を持ち、自ら正しく判断して行動できる生徒を育てる。	(指標) 生徒の朝の遅刻について、1人あたり前年度比20%減を目指す、指導啓発を行う。 (前年度比20%以上の減少を評価A、10%未満の減少を評価B、増加を評価Cとする)	A	B	・時間と共に減少が進み、前年度比29%減少した。教員による朝の出迎え活動、集会を活用した啓発指導などが要因。生徒会活動などを含め多面的な取組を積極的に進める。	A	A	A
		日常指導や予防的活動を通して生徒の規範意識の育成を図り、共通認識に基づいた連携のとれた指導体制を確立する。	B	B	・「そう思う」との回答が80.3%であり、前年度86%と比べ少し減少したが、いじめを肯定する生徒は0であった(前年度6%)。次年度も100%を目標に各HRや全校集会時における指導、生徒会の自主的な活動等の充実を図る。	A	A	A
評価者の意見等	・家庭教育の充実が求められる。							
進路指導	3年間を見通した各学年の指導計画を立案し、学年団との協力体制に基づいた進路指導を行う。	(指標) 就職を希望する生徒の進路実現について、年度内の内定率を100%とする。 (内定率が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満を評価Cとする)	A	A	・当初就職希望者の内定率は100%となった。次年度は、インターンシップの全学年実施、職業観・進路意識を涵養する取組を地域と連携し進める。	A	A	A
		生徒の進路希望の実現に向けた講習計画や面接指導を計画し、模擬試験を実施する。	B	B	・82%(前年65%)であった。1年生57%(15%)2年生96%(95%)3年生85%(86%)であった。前年度から大幅に改善した。次年度はさらに取組を進める。	A	A	A
評価者の意見等	・進路活動と結果について満足している。 ・新たな取組が計画されており、さらに教育活動が充実していくことを期待する。							